

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

2019年の展望を考えるに当たり、昨年2018年を振り返ってみると、当初想定していたように2017年と同様のレンジ相場が継続してしまいました。

年間の値幅は10円を下回り過去最少、2017～2018年の2年間を通して値幅は14円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、年明けの1月3日に108円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドルは短期に4円以上の下落という動きが引き起こされました。

107円半ば以下では、公的年金のドル買いのうわさもあり、現在ではややドルが持ち直していますが、依然不透明な状況が続いています。

ドル/円相場のトレード戦略

今後の相場は、米経済の成長が鈍化するのか、それに伴って米国の利上げが打ち止めとなるのかが注目されることになるでしょうが、1月の米FOMCでは声明文から追加利上げのバイアスが削除されたことにより政策スタンスが大きく変わった可能性が指摘されており、当面の上値は限られたものとなりそうです。

ただし、2月の米雇用統計は好調を維持しており、早期に明確なファンダメンタルズの変化が起きるかの世は低く、また米中通商交渉の前向き妥結の期待感もあり目先ドルは底堅く推移しそうです。当面は、108円から114円程度のレンジが想定されます。

■短期展望

先週は、110円後半でスタートした後、一時110円36銭まで下押ししたものの週後半にかけてドルは底堅く推移し、週末には一時112円台を回復する動きとなりました。

今週も、ドルの底堅い動きが継続し、111円～113円程度のレンジを予想します。

昨年末から市場を支配していたグローバル景気後退、米中関係悪化等の悲観が大きく後退しリスクオンの流れが現在のドル高の背景にあり、その流れは今週も続くものと思われます。ただし、今週末の米雇用統計次第では、再び悲観論が強まる可能性もあり、注意が必要といえるでしょう。